

目次

第一部 本文（翻刻と注）	1
第二部 史実との関係	1
一 年号	27
二 地名・神社仏閣	27
三 人名	31
四 事物・他	37
五 地質的状況	40
六 治水工事	43
七 交通路	47
八 年令	51

第三部 國語學的調查 55

一 作者介入の表現・表記	55
二 文体	63
三 用字	66
四 文法	77
五 語彙	80
六 音韻	81
七 比喻表現	82
八 人称	83
九 引用形式	89
十 國語学的意義	102
第四部 国文学的調査	110
一 文献資料	110
二 口承資料	149

三 先行作品との関係—逆髪と破皿— 174
 四 国文学的意義
 五 説話文学としての『恨報実録』 210
 六 現存する類似説話
 七 破皿事件の女性
 おわりに
 あとがき
 逆髪現象・破皿事件・針飯事件一覧表 223
 資料一覧
 索引

232	228	225	223	221	219	216	212	210
232	228	225	223	221	219	216	212	210

第一部 本 文（翻刻と注）

まず『百子沢恨報実録』の作者・成立・書誌について略述する。

一 作者

未詳。ただし本書、後表紙の表の右下に「伊藤左馬之助 藤原親右衛門書」と並記されている。藤原姓が書き記したことは明白であるが、直ちに作者とは断じ難い。また伊藤姓の役割が判然としない。あるいは伊藤姓が述べたものかもしれない。また前表紙裏左下に「羽州米沢中津川伊藤新右衛門書」とあり、先きの藤原姓とこの伊藤姓のどちらが先きに記したものかは不明であるが、写本の順序からみて、藤原姓が古いものかと思われる。

『村史なかつがわ』（中津川村史編纂委員会編 昭和三十五年十月刊）の資料の中に同姓同名は見当たらぬ。宝暦八年（十七五〇）九月付の「小屋村惣百姓中証文ニシテ相渡申奉」の中の連名の中に、「百生」として「新右エ門」の名がある程度である。

二 成立

書写年、成立年は記されていないが、次の二点から推定してみる。

①本文中に記されている年号は、「元和始」「寛永十四年」「元禄年中」「宝暦年中」であり、この宝暦年中（十七一～一七四）以降の成立となる。

8、解説不可能箇所は□で示した。

頭注について

- 1、原文にある古語的表現・方言的表現の面からを主として注した。
- 2、そのために江戸時代を中心とした辞書・文学作品、その他、方言集・方言辞典、史書等を参照した。

参照した主な資料の書名と略号は以下の通りである。

- 節用集 黒本—黒本本、伊京—伊京集、天正—天正十八年本、饅頭—饅頭屋本、易林—易林本、書言—書言字考節用集

- 方言集・方言辞典 県方県—『山形県方言辞典』(昭和四十五年 山形県方言研究会編)、米沢方言—『米沢方言辞典』

(昭和四十四年 上村良作氏監修)、小国方言—『置賜・下越 小国方言集』1・2 (昭和三十年 金儀右衛門氏編著)

- 地名・歴史 日本地名—『角川日本地名大辞典』6 山形県 (昭和五十六年 角川書店)、町史—『小国町史』(昭和四十一年 小国町史編集委員会)

- 邦訳日葡—『邦訳日葡辞書』(昭和五十五年 土井・森田・長南氏編訳)

- パ氏日仏—『日仏辞書』(昭和四十三年 白帝社)

- 口氏大文典—『日本大文典』(昭和四十四年 土井氏訳)

- 和英語林集成 (慶応三年 〔ヘゼリ〕 J. C. HEPBURN 氏)

- 『邑鑑』(慶長十年以降の作成か。昭和五十五年米沢市史編集資料第二号下平才次氏解説)

- 『新版日本史年表』(昭和五十四年 歴史学研究会編 岩波書店)によつて年号の確認をした。

百子沢 恨報実録

(一)序 執筆の動機

一一「弘フランヒロム」(黒本・易林)。「すかし」賺する意。慰める。「Suzaku子供などをなだめ慰める。あるいは、撫でかわいがる」(邦訳日葡)。「童子(わらべすかし)」(浮世・日本永代藏・六・五)。

二二書物。ここでは後述のような読み物を指す。「仏法をもてかきたる物語なれば、つねの草子にばかりて」(戴恩記)

三四山東京伝

四五式亭三馬 安永五年～文政五年 へ一七七六年～一八一八年

五六曲亭馬琴 明和四年～嘉永元年 へ一七六七年～一八四八年

七八目録四、五と共に作家。虚偽の文学は罪であるとする考え。「頗はくは今生世俗の文字の業狂言綺語の誤りをもつて翻して當来世々讀乘みの因転法輪の縁とせむ」(和漢朗集・下)。「ぬかれ」は連用形であります。室町時代以降の接続法(以前は終止形接続)。

九九年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。元小国南方。米沢藩領置賜郡下長井のうち(上杉領)。村本録によれば二十四ヶ村。現在の小国町の南部。

一〇三十三人。五十七石四斗と記録されている。二草分けと云ふ「守貞漫稿」(三馬)には、家数六軒、人二クサワケと云ふ。

一一応仁の乱(応仁元年～文明九年へ一四六七年～一四七七年)を指すか。七頁注七までの内容から逆算するところの頃になる。

一二以下の国名は各 南海道の一国。(和漢三才図会)未詳

一三「一族イチソク」(黒本・天正・易林)が正しく。地勢が陥しくて敵を防ぐのに便利な所。「土肥の杉

七六五四五、六、七、「守貞漫稿」には、家数六軒、人二クサワケと云ふ。

一四草分け。初め荒地を開いた人。「草創」江戸にて以後、代々の通称名ともなる本書の主人公の名。

一五本書の舞台となる所。『邑鑑』には、家数六軒、人二三十三人。

一六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

一七この頃になる。

一八小国南方。米沢藩領置賜郡下長井のうち(上杉領)。村本録によれば二十四ヶ村。現在の小国町の南部。

一九本録によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二〇本書の舞台となる所。『邑鑑』には、家数六軒、人二三十三人。

二一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

二九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

三九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

四九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

五九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

六九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

七九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

八九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九一「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九二「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九三「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九四「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九五「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九六「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九七「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九八「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

九九「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。

一〇〇「守貞漫稿」(三馬)によると、百子沢村と云ふ。山内に百子沢城。現在の山形県米沢市にあつた城。暦仁元年へ一二三八年～大江時広創築とされる(日本地名)。